

ふるさと米子 探検隊

第10号 米子 人物事典の巻 2007年3月27日



じんぶつ
人物を調べてみよう!

編/発行 米子市立図書館
TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637
<http://www.yonago-toshokan.jp/>

ふるさと米子のことをよく知るには、米子にゆかりのある人々のことを調べてみるのもよい方法です。米子の歴史で忘れてはならない人々。米子の街づくりに努力した人々。米子生まれで、科学・文学・スポーツなど、いろいろな分野で活躍した人々。人物を調べてみると、その人の生まれた時代や活躍した時代のことなど、いろいろなことがわかります。

探検隊第10号では、「米子市市民栄光賞受賞者」の方々を最初に紹介しました。米子市役所の玄関には、この11名の方々の写真がかざってあります。

4Pからは、19の分野に分けて、53人の人を紹介しました。これらの人々は、明治・大正・昭和の時代に活躍した人々です。

最後の8ページには、人物を調べるときに役立つ本を紹介しました。

みなさんも、人物調べに挑戦してみましよう!



米子市市民栄光賞受賞者

1997(平成9)年、米子が市になってから70年目の記念行事として、「米子市市民栄光賞」が設けられました。最初に紹介する11名の方々は、芸術・学術・体育などの分野で活躍され、この賞を受賞された方々です。



白井 喬二(小説家)1989～1980

日本の文学界に「大衆文学」という新しい分野をつくり、大衆文学のリーダーとして活躍しました。短い間、米子の山陰日日新聞の記者をしたこともあります。代表作『怪建築十二段返し』『富士に立つ影』『新撰組』など多くの著作があります。



生田 春月(詩人、翻訳家)1892～1930

ドイツの詩人ハイネの作品を日本に紹介した第一人者。春月の生活信条は「勤勉と孤独と純潔」。大正から昭和の時代にかけて、とても人気のある詩人でした。詩集『靈魂の秋』『感傷の春』、翻訳『ハイネ全集』『ゲエテ詩集』、小説『相寄る魂』などが代表作です。



鷺見 三郎(音楽家、バイオリン奏者)1902～1984

世界的なバイオリン奏者であるとともに、バイオリン教育の第一人者。国際コンクールの審査員を務めたり、国立音大、桐朋学園大などで学生に教えたりして、優れたバイオリニストを何人も育てました。日本のバイオリン教育史の中では、とても重要な仕事をした音楽家です。



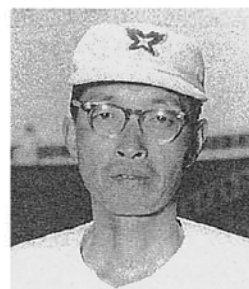
高木 東六(作曲家、ピアニスト)1904～2006

数々の名曲を残した作曲家、ピアニスト。日本人の心に残る名曲を創作して、音楽界をリードした人物です。代表作に「二つのピアノコンチェルト」、オペラ「唐人お吉」、交響曲「朝鮮の舞踊組曲」、ポピュラー「水色のワルツ」。また、「米子市のうた」「わかとり国体の行進曲」の作曲者でもあります。



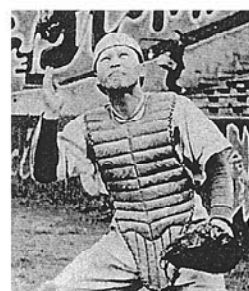
菅田 栄治(科学者)1908～1988

世界的な電子顕微鏡研究の第一人者。1940(昭和15)年、日本で初めての電子顕微鏡を組み立てました。1970(昭和45)年、大阪大学教授のとき、日立製作所との共同研究で、電圧300万ボルトの電子顕微鏡の開発に成功。大阪大学名誉教授、大阪電気通信大学名誉教授・元学長。



岡本 利之(元米子東高校野球部監督)1916～1969

1950(昭和25)年、1958(昭和33)年～1968(昭和43)年まで、米子東高校野球部の監督を務めました。岡本監督時代、高校野球で春の選抜大会4回、夏の選手権大会2回甲子園に出場。1960(昭和35)年の選抜大会では準優勝となり、「米子」の名前を全国にひろめました。



土井 垣武(元プロ野球選手)1921～1999

米子中学(現米子東高校)卒業後、阪神に入団。捕手として活躍し、阪神タイガースの黄金時代を築きました。阪神→毎日→東映→阪急に在籍。通算1413試合に出場。4783打数、1351安打(打率・282)を記録。オールスターにも2回出場した名選手でした。



岡本 喜八(映画監督)1924～2005

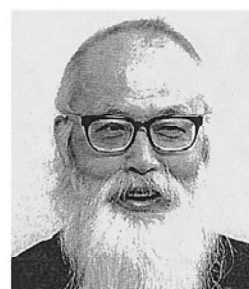
日本を代表する映画監督。「結婚のすべて」という作品で監督デビュー。「日本のいちばん長い日」「肉弾」など、戦争の体験を独特の視点から描き注目されました。また、映像のリズム感にも独特のものがああり、後輩の監督たちに大きな影響を与えました。



田中 敬一(医学者)1926～

鳥取大学医学部長を務めていた1985(昭和60)年、80万倍という世界最高の倍率の走査電子顕微鏡を開発し、脚光をあびました。また世界で初めてエイズウィルスの拡大写真撮影に成功するなど、走査電子顕微鏡の権威として知られています。

2000(平成12)年、米子の自宅にSEM研究所を開設されました。



宇沢 弘文(経済学者)1928～

経済学の理論的な分野で、世界中の専門家から注目される大きな業績を残した経済学者です。また、環境問題などをあつかう公共経済学や、自動車公害・地球温暖化問題など、さまざまな社会問題にも積極的な発言をして、行動する知識人として、社会に大きな貢献を果たしました。



米田 哲也(元プロ野球選手)1938～

境高校を卒業後、阪急に入団。投手として活躍し、1年目に9勝。翌年21勝をあげてエースとなり、以来2桁勝利を18年続けたすごい投手です。949試合登板(歴代1位)、350勝(歴代2位)、3388奪三振(歴代2位)、投球回数5130(歴代2位)など、数々のすばらしい記録を残しました。

ここに紹介する人たちは、明治・大正・昭和の時代に活躍した人たちです。米子市生まれでなくても、米子に深い関わりのある人たちをとりあげました。ジャンルを図書館の分類順に並べ、それぞれのジャンルのなかには、生まれの古い順に名前が並んでいます。

〔新聞〕碧川企救男1877～1934 福岡県生まれ、裁判官だった父の転勤で米子へ。角盤高等小学校に通う。東京専門学校(現早稲田大学)を卒業後、北海道で新聞記者となる。妻・かたは、婦人参政権運動で活躍した人。詩人の三木露風は、かたの前夫との間にできた子ども。

〔宗教〕瀧含雄1896～1964 米子市功労者。浄土真宗西念寺住職。宗教教育研究のためアメリカへ留学。帰国後、母校大谷大学の教授や、本山の重要な役職につく。米子へ帰ってからは、教育委員長をつとめたり、米子高校の創立に努力した。

藤澤武義1904～1986 無教会派とよばれるキリスト教伝道者。太平洋戦争中に戦争反対を主張したり、ネパールの赤ひげ先生として知られる岩村昇(医師)などに大きな影響を与えたキリスト者。

〔社会運動〕松南徹翁1815～1884 淀江の大庄屋。江戸時代の終わりごろ、自分の資金で松南農兵隊という軍事組織を作る。新政府の側に立って、奥羽追討軍で活躍した。

大山初太郎1892～1974 農民運動家。昭和時代のはじめ、小作人組合を作ったりして、土地を持たない貧しい農民のために活躍した。1927(昭和2)年、箕蚊屋小作争議を中心となって指導した。

西田税1901～1937 思想家。昭和はじめの時代の国家主義者。思想家・北一輝のもとで、2.26事件と呼ばれる事件に深く関わった。加茂川治に、西田の歌碑がある。

〔政治〕西尾常彦1877～1947 米子市名誉市民。1915(大正4)年、第9代米子町長となる。1927(昭和2)年、米子町が米子市になった時の、初代市長となる。米子市の今日の基礎を築いた人物の一人。

遠藤光徳1881～1973 米子市名誉市民。境港外江生まれ。実業家。また町議・市議・県議として、三十年にわたり地方自治のために努力した。米子商蚕学校・米子工業学校の創設にも貢献した。

斉藤干城1885～1948 医師(軍医)。太平洋戦争の末期から戦後にかけて、第2代の米子市長となる。医学校の誘致に大きな貢献をした。

三好英之1885～1956 米子市名誉市民。政治家、実業家。1908(明治41)年、山陰日日新聞社を作る。山陰実業銀行の創立にも参加。後に衆議院議員、国務大臣をつとめる。



野坂寛治1889～1965 米子市名誉市民。境町長、県会議員の後、米子市長を5期つとめる。今の米子の街の基礎を作り上げた市長。俳句や絵がうまく、文人市長としても知られた。

足鹿寛1904～1988 米子市名誉市民。農民運動家として、農民の地位向上のために働いた人。米子市議、鳥取県議から参議院議員となる。

赤澤正道1907～1982 米子市名誉市民。1946(昭和21)年に衆議院議員となり、当選9回。自治大臣などをつとめ、米子市に山陰労災病院を誘致することなどに努力した。

〔経済〕今井芳齋1828～1901 岡山県生まれ。江戸時代のおわりごろオランダの医学を学び、米子・荒尾家の医師となる。明治時代になり、書店・印刷業をはじめた。多くの文人と交友したことで知られる。

坂口平兵衛1854～1933 米子市名誉市民。米子の近代を代表する実業家。製糸・金融・水産・製鋼・電気などの、多くの分野で事業を開拓した。後に貴族院議員もつとめた。

有本松太郎1863～1941 兵庫県生まれの実業家。鉄道の山陰線建設にかかわり米子に来る。温泉街の建設から道路・電車の整備まで、皆生温泉の開発に尽くした人物。

後藤快五郎1864～1927 米子市名誉市民。島根県生まれの実業家。山陰の鉄道建設に尽くした。山陰線開通記念の全国特産品博覧会を主催。長い間、町会議員・県会議員としても活躍した。

〔教育〕足立正1864～1947 境港生まれ。1900(明治33)年、淀江の養良校の校長になるなど、教育者としての仕事とともに、郷土史の研究者としても大きな業績をのこした。

小泉順三1903～1980 米子北高校の創立に尽くした教育者。また、実業家として、西部生協の設立に深くかかわった。同栄文庫の創設者で、消費組合運動の歴史に関するりっぱな研究も残している。

佐々井秀緒1905～1989 本名は秀男。昭和のはじめごろ、峰地光重などとともに、生活つづり方運動を押しすすめた教育者。1933(昭和8)年、雑誌「国・語・人」を創刊し、作文教育の研究をすすめた。

妹尾輝雄1910～1998 教育者。佐々井秀緒らとともに「国・語・人」によって、生活つづり方運動を実践した。のちに、米子美術家協会の会長をつとめた。

〔算術〕松永藤一郎1810～1891 松永流珠算(ソロバン)の創立者。すばやく掛け算と割り算ができる方法を考え、全国にひろめた。全国の門人3万人といわれるほど、多くの人からしたわれた。

〔医学〕松本元泰1790～1883 江戸時代おわりごろの医者。西洋医術を学び、種痘をひろめた。米子のジェンナーともいべき人物。



下田光造1885～1978 米子市名誉市民。鳥取市(河原町)出身の医師。精神医学が専門。1945(昭和20)年、米子医学専門学校の初代校長となる。その後、医大の学長、また鳥取大学の学長として活躍する。

田中たつ1892～1985 看護師・助産師として活躍のち、太平洋戦争後はじめての国政選挙で衆議院に当選。女性代議士のさきがけとなる。

花房照子1928～1996 米子出身の医学研究者。夫で文化勲章受章者の秀三郎とともに、アメリカでがん・ウィルスの研究にうちこんだ。

〔開拓〕**北国平四郎**1819～1884 岩美町出身。屋号は北国屋、牧田屋。米子の新開川の開発に活躍した一人。

金田長八1830～1878 北国平四郎とともに、新開川の開発に活躍した。

(ふるさと米子探検隊第5号「川とくらしの巻」にくわしく出ています)

〔彫刻〕**戸田海笛**1888～1931 彫刻家。本名・久輝。安来出身の彫刻家・米原雲海に師事。パリへ単身留学し、鯉の海笛(墨絵)として人気を得た。

杵谷精一1897～1970 彫刻家。戸田海笛に師事。肖像彫刻が得意で、多くの銅像を手がけた。

辻晋堂1910～1981 伯耆町出身の彫刻家。京都市立芸大で教えるかたわら、陶芸と彫刻を一緒にした陶彫作品というジャンルを作り、国際的な評価を得た。米子市内で、いくつか作品を見ることができる。

〔絵画〕**古曳盤谷**1804～1885 医師であり、また書家・画家でもあった。江戸時代のおわりに、新しい時代のために活躍した勤皇活動家でもあった。長野県の松本に塾を開き、漢学と絵画を教えた。

森田光達1898～1976 京都美術学校戸島塾で日本画(漆画)を学ぶ。特に鯉の絵が有名。1965(昭和40)年、鳥取市より芸術文化功労賞を受賞。

丹羽長兵衛1901～1970 洋画家。太平洋美術研究所に学び、新しい絵画表現運動にすすんだ。太平洋戦争後、「麓人会」の結成に参加した。

笹鹿彪1901～1977 洋画家。本郷洋画研究所に学ぶ。丹羽長兵衛などととも「麓人会」結成に参加。日展、光風会などで活躍した。

国頭繁次郎1916～1969 洋画家。独学で絵を学ぶ。独立美術協会で活躍する。米子美術家協会会員として、県の洋画界をリードした。

〔マンガ〕**森秀樹**1961～ マンガ家。ゴルフマンガ「青空しょって」が初期の代表作。「墨攻」で小学館漫画賞を受賞(2004年度)するなど、現在もっとも注目されるマンガ家の一人。

〔写真〕**山本良種**1854～1932 鳥取生まれの写真家。県下の写真家の草分け。良種のとった米子城の写真は、記録写真として貴重な資料となった。

岩宮武二1920～1989 写真家。大阪の写真家集団・丹平写真倶楽部で活躍。アジア各地の仏教美術写真で、すぐれた写真集を残した。



杵島隆1920～ 写真家。植田正治に師事。写真家集団・エタン派結成に参加。広告写真のジャンルで、新しい手法によって注目をあびた。

〔芸能〕**乙羽信子**1924～1994 女優。1939(昭和14)年、宝塚歌劇団に入る。その後映画女優へ。新藤兼人監督のもとで多くの映画に出演した。

〔映画〕**碧川道夫**1903～ 映画カメラマン。「地獄門」で1954(昭和29)年度芸術祭文部大臣賞を受賞。映画色彩技術の草分け的存在。碧川企救男・かた夫妻の長男にあたる。

岡本克己1930～ シナリオ作家。テレビドラマでも多くの名作、人気作品を手がけた。

〔野球〕**湯浅禎夫**1902～1957 プロ野球選手・監督。1950(昭和25)年、プロ野球の第1回日本シリーズで、毎日オリオンズの監督として優勝する。

〔相撲〕**若島権四郎**1874～1943 千葉県生まれ。本名は高橋大五郎。大阪相撲の横綱。相撲をやめてから米子に来て、一時期市会議員をつとめる。

〔柔道〕**門脇誠一郎**1886～1947 境港出身の柔道家。講道館で学び、1918(大正7)年より、米子中学と警察で柔道を教え、多くの弟子を育てた。

〔文学〕**松原岩五郎**1866～1935 日本のルポルタージュ文学の草分け。代表作は東京の貧しい人々の暮らしを書いた『最暗黒の東京』。北海道の「大雪山」という地名は、岩五郎がつけたという。

高浜長江1871～1912 本名・高浜謙三。詩人。東京の青山学院で教師をつとめるかたわら、詩や評論を発表した。

岸田秋子1901～1942 児童文学の翻訳者。秋子の実家・村川家は、竹島渡海で知られる米子の旧家。のちに劇作家・岸田国土と結婚。詩人・岸田衿子、女優・岸田今日子の母となる。

村雨退二郎1903～1959 倉吉生まれの小説家。本名・坂本俊一郎。昭和のはじめは農民運動で活躍。代表作『明治巖窟王』など、時代小説を多く書いた。

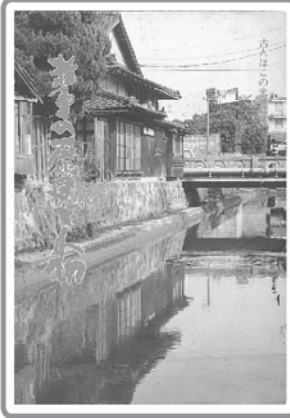
綾木紅潮1893～1968 俳人。本名・萬喜男。感動する心を重視する自由律俳句を主張し、「音楽としての俳句」を実践した。

佐藤徳堯1897～1983 小説家。山陰地方の民話研究に打ち込み、その成果を『山陰の民話』にまとめた。地元を題材にした小説も多数ある。米子市立図書館は、遺族から寄贈された蔵書を佐藤徳堯文庫としてまとめている。

則武三雄1909～1990 詩人。三好達治に師事。昭和の前半を朝鮮半島で過ごし、朝鮮の若き詩人・芸術家たちと交友する。戦後は福井に行き、そこで多くの詩人たちを育てた。則武の母方の祖父・山本新吉は、火野葦平『蛇体新助』のモデルとなった人物。



探検隊の参考資料



① 「米子の歴史と人物」
町史のりゆき
 樺範之／著 立花書院／刊 1982 Y281/Y18
 江戸時代から現代まで、米子の代表的な人物
 60人を紹介しています。

② 「米子市名誉市民展誌」
 新日本海新聞社／編・刊 1983 09281/S14
 米子市の名誉市民の方々を紹介した本です。

③ 「勝田ヶ丘の人物誌」
かんだがおか
 勝田ヶ丘の人物誌編集委員会／編
 鳥取県立米子東高等学校創立百周年記念事業
 実行委員会／刊 2000 Y280/K1

④ 「人づくり風土記31 ふるさとの人と知恵 鳥取」
 農山漁村文化協会／編・刊 1994 Y20/N10
 江戸時代に活躍をした人を調べるならこの本。
 米子の人も出ています。

⑤ 「鳥取県人物伝」
 新日本海新聞社／編 鳥取銀行／刊 1998
 Y281/S14-2

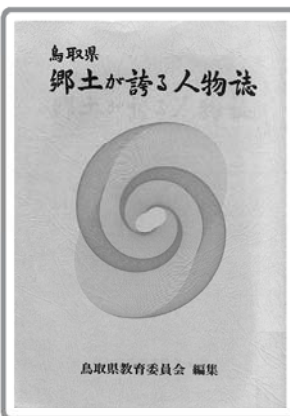
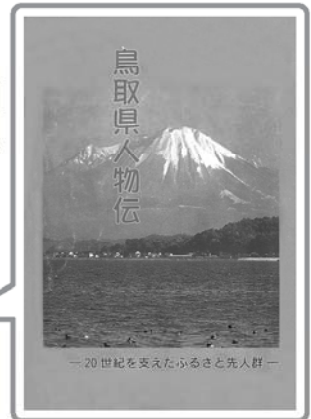
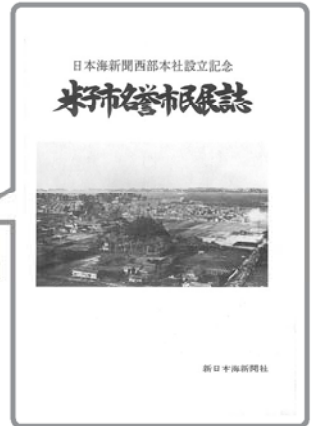
⑥ 「鳥取県人物伝 続」
 同上
 正編が64人、続編が47人、鳥取県にゆかりの
 ある現代人を紹介した事典です。

⑦ 「鳥取県郷土が誇る人物誌」
 鳥取県教育委員会／編・刊 1990 Y281/T2-2
 江戸時代から現代まで、鳥取県にゆかりの深
 い人物150人を紹介しています。

⑧ 「鳥取県百傑伝」
ひゃっけつでん
 金田進／著 山陰評論社／刊 1970 Y281/K2

⑨ 「鳥取県大百科事典」
 新日本海新聞社鳥取県大百科事典編集委員会／
 編 新日本海新聞社／刊 1984 Y03/T1
 本の名前の通り、鳥取県内のことを調
 べるにはとっても便利な百科事典。

⑩ 郷土人物データベース
 (県立図書館ホームページ)
<http://www.library.pref.tottori.jp/>



(イラストは難波康子さん)